

2016年5月2日 第1版  
2016年6月27日 第2版  
2016年8月6日 第3版

## 臨床腫瘍径 1cm 以下の肺野末梢型肺癌の臨床病理像

**研究責任者)** 国立がん研究センター東病院 呼吸器外科  
科長 坪井正博

2000年1月から2010年12月にかけて、国立がん研究センター東病院にて手術前にCT検査で腫瘍の大きさが1cm以下でリンパ節転移や遠隔転移のない肺癌患者さん40人のカルテのデータを用いて画像上の特徴や、組織学的特徴、また手術後の長期の成績を研究します。

### 研究の概要：

わが国において、肺癌は死亡数がかつとも多いがんです。早期の肺癌では手術が標準治療であり、現在の標準手術は、癌のある肺葉を切除し腫瘍の部位ごとに定められたリンパ節を切除する、肺葉切除およびリンパ節郭清が標準手術となっています。しかし、近年の研究において、小型の肺癌でリンパ節転移や遠隔転移のないものに関して、CT画像で、すりガラス影と呼ばれる所見を示す肺癌に関しては、区域切除や部分切除といった、肺葉切除と比べてより狭い切除範囲によって、肺葉切除と遜色のない治療成績を得られる可能性が数々の研究によって示されてきており、現在、どのような肺癌で縮小手術を行うことができるか、多施設による前向き臨床試験も進められているところです。

今回の研究では、国立がん研究センター東病院における、CT画像上、腫瘍の大きさが1cm以下と極めて小型の、リンパ節転移や遠隔転移のない肺癌に対して手術を受けた患者さんのデータを用いて、その画像上の特徴および病理学的特徴、長期的な成績について明らかにすることを目的としています。

### 研究の意義：

腫瘍径が2cm以下でリンパ節転移や遠隔転移のない肺癌は、特に早期の肺癌であり、切除後の5年生存割合は82.0%とされています。これらの肺癌で、特に治療後の成績と関係のある因子として、CT画像上、すりガラス影と呼ばれる所見を示す肺癌において、特に治療後の成績が良いことが複数の研究において示されています。しかし、腫瘍の大きさが1cm以下と極めて小型である、リンパ節転移および遠隔転移のない肺癌に限定した、腫瘍の画像上の特徴と手術後の長期成績に関するデータはまだ少なく、肺癌の手術件数の多い国立がん研究センター東病院のデータを調べることは意義があります。

### 目的：

術前の薄切CTにおいて、腫瘍の大きさが1cm以下であり、画像上リンパ節と遠隔転移を

2016年5月2日 第1版  
2016年6月27日 第2版  
2016年8月6日 第3版

認めない肺癌に対して手術をうけた方々のデータを用いて、CT画像上の特徴と、病理学的特徴、および長期的な成績を明らかにすることを目的としています。

**方法：**

2000年1月から2010年12月までに完全切除された画像上腫瘍の大きさが1cm以下であり、リンパ節転移や遠隔転移のない肺癌患者さん40人を対象としています。対象となった患者さんの診療録から、その臨床的特徴に関する必要な情報を収集しますが、情報収集の作業に当たる人員は医師をはじめとする医療知識のある研究者です。

**個人情報保護に関する配慮：**

閲覧する診療録には個人情報が含まれますが、患者さん個人が特定されないやり方で情報を収集します。対象となる患者さんの識別は、カルテ番号を使用しますが、患者さんの氏名などの個人情報が院外に出ることはありません。患者さん等からのご希望があれば、その方の診療録は研究に利用しないようにしますので、いつでも次の連絡先まで申し出てください。

**照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：**

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 呼吸器外科 仲宗根 尚子

FAX 04-7131-4724 / TEL 04-7133-1111